

ナラ枯れ被害の拡大の要因の一つは、森林の高齢化、大木化があげられます。暖冬や猛暑も虫の大量発生を後押ししており、今後も被害森林の増加が予想されます。小谷村でも昨年あたりから目立ってきました。
なお、小谷村での被害樹種は、ミズナラ、コナラが主です。

ナラ枯れって、なぜ起きるの？



黒川地区の上部（今年8月25日）



中谷地区長崎の上部（今年8月27日）

◎ 枯れる原因は、体長4～5ミリの虫

カシノナガキクイムシ（以下カシナガとよぶ）という小さな虫のオスが、1本の木に入って集合フェロモンを発散します。すると、大量のカシナガが入ってくるようになります。**メスは、ナラ菌を持ち込んでくるため**、木が感染して水を吸い上げられなくなり、枯れてしまいます。

◎ カシナガは、木を食べるのではない

カシナガは、**木を食べているわけではありません**。アンブロシア菌と呼ばれる**菌類をメスが持ち込んで孔道内で繁殖させ、成虫も幼虫もこの菌を食べて成長します**。

自らの食料を栽培するような仕組みを持つため、「養菌性キクイムシ」と言われています。



オス 胴体の先端に突起がある

メス 胴体の先端に丸みがある

林野庁のホームページから転載

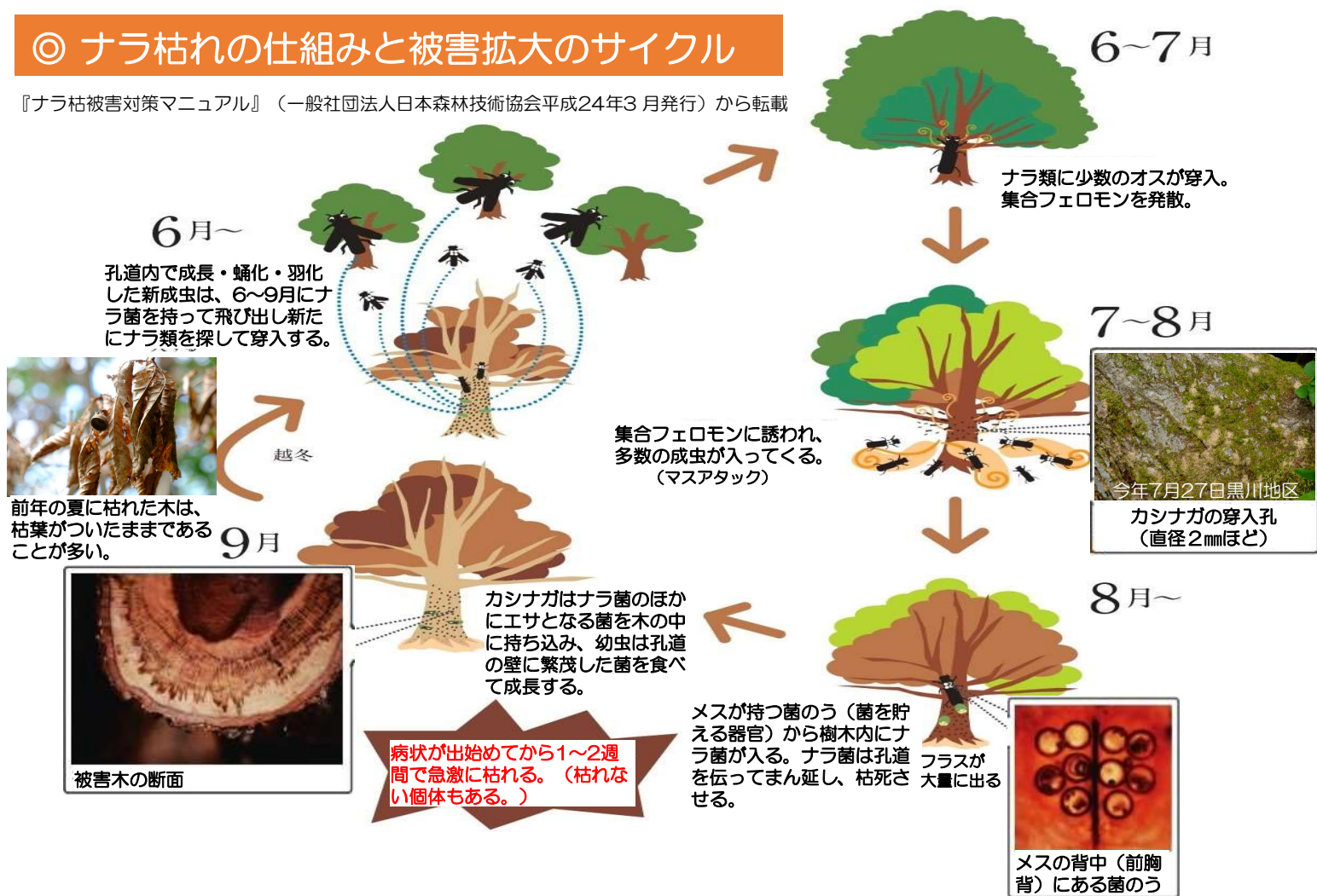
2016年10月4日 中谷黒倉地区



カシナガの入った木は、木の粉（フラス）が飛び散っている。枯れていてもフラスが無いと、別の原因が考えられる。

◎ ナラ枯れの仕組みと被害拡大のサイクル

『ナラ枯被害対策マニュアル』（一般社団法人日本森林技術協会平成24年3月発行）から転載

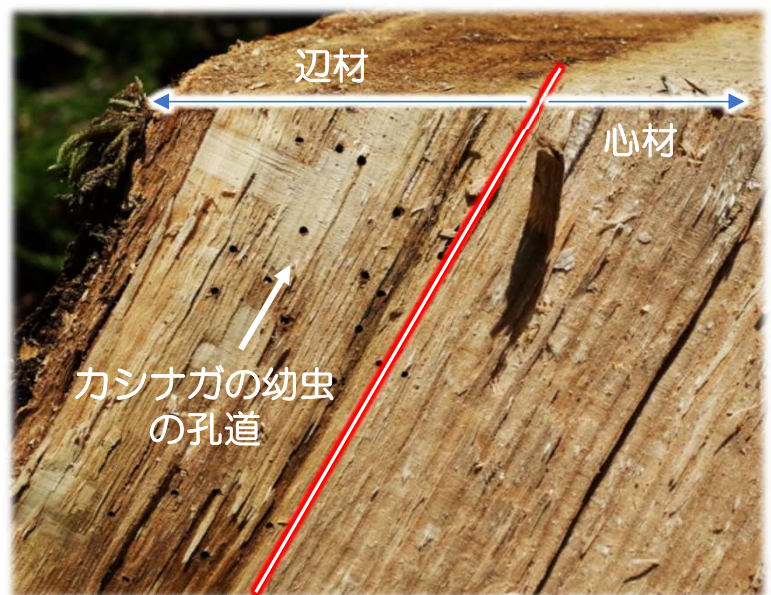


◎ カシナガが木に入る範囲は？

カシナガは、外界での生活が得意ではないようです。遠くへ飛んでいくことも不得手です。そのため、成虫になって木から脱出しても、すぐに木へ入っていくようです。入るのは、木の根元が最も多く、徐々に上部へ増えていきますが、高くて4m程度までのようです。

木の中での移動は、ナラ類では辺材と呼ぶ木の生きている部分です。心材という硬い部分には入っていきません。

したがって、心材部は家具などへ加工することも可能です。



2017年5月7日 中谷黒倉地区

◎ 被害木のその後は？

翌年からムキタケ（コウムケ）やナメコ、条件が合えばマイタケの発生が見られます。立ち枯れ木に下から手の届かない高いところまでナメコがびっしり、ということもあります。その後、2~3年経つと、根が支えられなくなって倒れます。



被害木を見つけたら
役場へ情報をお寄せください。

次号予告
ナラ枯れ被害の予防と対策